令和７年９月８日

杉並三田会　吉井英生

インド北部・ラダック地方旅行記

・令和７年８月６日から１９日まで、インド北部ラダック地方に旅行し、ヒマラヤ・カンヤツェ２峰(6270m)に登頂してまいりました。幸運が味方してくれた登頂でした。
・私は、30 歳の頃、プロの登山家になりヒマラヤ登山に人生を賭けるか、仕事を優先しアマの登山家に留まるかの選択を迫られ、後者を選択したため、6 千m峰に登頂するのに約 40 年かかりました。以前は、休暇日数の関係から、ヒマラヤ登山は絶望的だと諦めていました。
・プロの登山家になった方々は、既に、ヒマラヤ７千m峰、8 千m峰を数多く登っていますが、私は、当時、民間企業から経済企画庁に出向中で、経済学の面白さに目覚め、その後、米国・ニューヨーク大学院に留学し更に経済学の研究を深め、様々な著名な経済学者と知り合い、有意義な人生を歩んだと思っていますので、30 歳の頃の選択を後悔はしていません。
・インドは、経済学の研究を始めた時に、研究対象とした国の一つであり、初めて、インドを訪問し、学ぶことが多かったです。本日はその一部をご紹介できればと思います。

ラダック地方は小チベットと言われる仏教の中心地で沢山の仏教遺跡がります。特に、ラダックの中心地のレーには、沢山のお寺があり、インドがヒンドゥー教の国であることを忘れてしまいます。

ヒマラヤ登山のキャラバンは荒涼とした灼熱のマルカ谷を歩いていきます。

高温のため氷河が溶けて増水した河川を越えると豊かな緑が現れます。

苦しいキャラバンの後、やっとカンヤツェ峰（左が 1 峰 6401m、右が 2 峰 6270m）が美しい姿を表します。

国際色豊かなキャンプサイト（スペイン隊、フランス隊等がおりました）。

カンヤツェ２峰(6270m)登頂。しんどいため、にこやかな表情が作れませんでした。

さらば、カンヤツェ峰（ここが、帰りに最後に見える峠）

繁栄するデリーの観光（写真は、フマユーン廟）

・本格的なヒマラヤの高峰への登頂は長年の夢でしたから、感無量でした。今後はヒマラヤ７千ｍ峰登頂を目指してさらに精進したいと思います。
・ヒマラヤ登山を諦めていたので、国内の厳しい山々を登攀してきました。正に「継続は力なり」で、この登攀経験が本格的なヒマラヤ登山に活きたと思います。
・インドの力強い経済発展を目の当たりにして、日本とインドの経済関係は今後益々強化されるだろうと思いました。　以上